

translingua®

Typographischer Support

1 Deutscher Ausgangstext mit Gestaltungsvorgabe.

DER WIENER STEPHANSDOM “STEFFL”

Der gotische Dom, das Wahrzeichen Wiens, hat eine jahrhundertlange Entstehungsgeschichte. Im 12. Jhd. als Pfarrkircherrichtet wurde der “Steffl” 1147 zu Ehren des Hl. Stephanus geweiht. Mitte des 13. Jhd. folgt über demselben Grundriss ein fast völlig neuer spätromanischer Bau, dessen Reste (Riesenturm und Heidentürme) noch die heutige Westfassade bilden. Zwischen dem 11. und 13. April 1945 wurde der Dom ein Raub der Flammen. Alle österr. Bundesländer wirkten nun am Wiederaufbau mit. Am 19. Dezember 1948 wurde das Langhaus und schließlich am 23. April 1952 der ganze Dom in seiner heutigen Form feierlich wiedereröffnet.

Der Stephansdom besticht schon allein durch seine Ausmaße: Die Gesamtlänge beträgt 107,2m, die Höhe des Langhauses beträgt 38,9m. Der Südturm ist mit 136,7m der drithöchste Kirchturm Europas. Als Geschenk des Landes Oberösterreich erhielt der Dom die neue 21 t schwere “Pummerin”, die nur zu besonderen Anlässen geläutet wird (z.B. zum Jahreswechsel).

In der Kirche besonders hervorzuheben: rechts der Marienaltar “Maria Pocs”, der Hochaltar, die Domkanzel und das Hochgrab Kaiser Friedrichs III. Interessant ist auch ein Rundgang um den Dom. Hier ist auch die Totenkapelle, wo 1791 W.A. Mozart eingeseget wurde. Die “Virgilkapelle” wurde anlässlich des U-Bahn-Baus freigelegt und ist von der Station aus zu sehen.

4 Korrigierte Version, die zuerst an den Übersetzer zur sprachlichen und abschließend an den Kunden zur graphischen Endkontrolle und Druck geschickt wird.

ウィーン・シュテファン大聖堂 “シュテッフル”

ウィーンのトレードマーク、シュテファン大聖堂は、数百年にわたる建造の歴史をもっています。“シュテッフル”は、教区教会として12世紀に建てられ、1147年、聖シュテファンに奉じられました。13世紀中頃には、そのままの平面図で後期ロマネスク様式に再建設され、当時の大 門と塔が現在の西ファサードを構成しています。1945年の4月11日から13日にかけて、大聖堂は戦火に呑み込まれてしまいました。しかし、オーストリア各州が再建に参加し、1948年12月19日に身廊が、そして1952年4月23日には全体が完了、大聖堂は今日の姿で華々しいセレモニーによる再オープンを迎えたのです。

シュテファン大聖堂は、その規模も目を見張るものです。最長107.2メートル、身廊は38.9メートルにわたり、136.7メートルの高さの南塔はヨーロッパの教会の塔で第3の高さにあたります。オーバーエステライヒ州から寄贈された、重量21トンの鐘、“プンメルン”は、大晦日など、特別の機会に鳴らされます。

教会内で特筆すべき部分は、右側のマリア祭壇“マリア・ボクス”、主祭壇、講壇、そして皇帝フリードリヒ3世の墓などです。大聖堂のまわりをひとめぐりするの、大変興味深いもの。1791年にW.A.モーツァルトの葬儀が行われた礼拝堂が位置しています。“ヴィアジール礼拝堂”は地下鉄建設の際に掘り開かれ、駅から見ることができます。

2 Vom Übersetzer gelieferte japanische Übersetzung als Fließtext, ungestaltet.

ウィーン・シュテファン大聖堂 “シュテッフル”

ウィーンのトレードマーク、シュテファン大聖堂は、数百年にわたる建造の歴史をもっています。“シュテッフル”は、教区教会として12世紀に建てられ、1147年、聖シュテファンに奉じられました。13世紀中頃には、そのままの平面図で後期ロマネスク様式に再建設され、当時の大 門と塔が現在の西ファサードを構成しています。

1945年の4月11日から13日にかけて、大聖堂は戦火に呑み込まれてしまいました。しかし、オーストリア各州が再建に参加し、1948年12月19日に身廊が、そして1952年4月23日には全体が完了、大聖堂は今日の姿で華々しいセレモニーによる再オープンを迎えたのです。

シュテファン大聖堂は、その規模も目を見張るものです。最長107.2メートル、身廊は38.9メートルにわたり、136.7メートルの高さの南塔はヨーロッパの教会の塔で第3の高さにあたります。オーバーエステライヒ州から寄贈された、重量21トンの鐘、“プンメルン”は、大晦日など、特別の機会に鳴らされます。

教会内で特筆すべき部分は、右側のマリア祭壇“マリア・ボクス”、主祭壇、講壇、そして皇帝フリードリヒ3世の墓などです。大聖堂のまわりをひとめぐりするの、大変興味深いもの。1791年にW.A.モーツァルトの葬儀が行われた礼拝堂が位置しています。“ヴィアジール礼拝堂”は地下鉄建設の際に掘り開かれ、駅から見ることができます。

3 Erstfassung des japanischen Textblocks laut Gestaltungsvorgabe. Gekennzeichnete Textstellen müssen noch adaptiert (z.B. Schriftgröße der Überschrift) bzw. korrigiert (Satzzeichen, Schriftzeichen, die nicht am Zeilenanfang stehen dürfen, etc.) werden.

ウィーン・シュテファン大聖堂 “シュテッフル”

ウィーンのトレードマーク、シュテファン大聖堂は、数百年にわたる建造の歴史をもっています。“シュテッフル”は、教区教会として12世紀に建てられ、1147年、聖シュテファンに奉じられました。13世紀中頃には、そのままの平面図で後期ロマネスク様式に再建設され、当時の大 門と塔が現在の西ファサードを構成しています。

1945年の4月11日から13日にかけて、大聖堂は戦火に呑み込まれてしまいました。しかし、オーストリア各州が再建に参加し、1948年12月19日に身廊が、そして1952年4月23日には全体が完了、大聖堂は今日の姿で華々しいセレモニーによる再オープンを迎えたのです。

シュテファン大聖堂は、その規模も目を見張るものです。最長107.2メートル、身廊は38.9メートルにわたり、136.7メートルの高さの南塔はヨーロッパの教会の塔で第3の高さにあたります。オーバーエステライヒ州から寄贈された、重量21トンの鐘、“プンメルン”は、大晦日など、特別の機会に鳴らされます。

教会内で特筆すべき部分は、右側のマリア祭壇“マリア・ボクス”、主祭壇、講壇、そして皇帝フリードリヒ3世の墓などです。大聖堂のまわりをひとめぐりするの、大変興味深いもの。1791年にW.A.モーツァルトの葬儀が行われた礼拝堂が位置しています。“ヴィアジール礼拝堂”は地下鉄建設の際に掘り開かれ、駅から見ることができます。